

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701137		
法人名	有限会社 赤ずきん		
事業所名	グループホーム 赤ずきん		
所在地	青森県三戸郡南部町大字大向字泉山道28-1		
自己評価作成日	令和3年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/02/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0272701137-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普段から挨拶や声掛けを積極的に行い、地域住民との交流図り、年に一度の「赤ずきんまつり」に参加いただき、施設を身近なものと感じていただけるように努めています。また、2ヶ月に1回毎の運営推進会議では、施設での出来事を報告し、委員の方から様々な意見をいただき、サービス向上のために取り入れています。季節に合った行事を計画し、屋外に出て楽しんでいただく機会を設けたり、施設敷地内に畑を作り、草取りや収穫を通して、毎日の生活が活気のあるものとなるように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周辺にはりんご畑や山があり、四季折々の季節を感じながら穏やかに生活できる環境である。利用者はホームの家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごしており、外部評価調査時には元気で清々しい歌声も聞こえてきた。
また、利用者や家族の希望に応じて、重度化や終末期についても、協力医療機関と連携して対応に努めており、利用者がその人らしく地域の中で暮らし続けていけるよう、職員は日々のサービス提供場面に理念を反映させながら、一人ひとりを尊重した支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は地域密着型サービスの役割を理解し、利用者個々を尊重するように努めている。	開設当初に作成したホーム独自の理念があり、職員は日々理念の意味を考え、利用者一人ひとりを尊重したケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、総会への参加や地域清掃を行っている。	町内会に加入し、花を植えたプランターを地域に飾る活動に参加している他、総会へも出席する等、日常的に地域住民との交流がある。また、定期的にホーム周辺の清掃活動もしており、地域への貢献活動も積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、見学や実習生・ボランティア等を受け入れ、外部の方を受け入れる際には利用者のプライバシーに注意するよう、事前に説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価及び外部評価結果を報告し、意見や情報交換を行い、今後のサービスの質の向上、確保につなげている。	今年度は書面開催も含め、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら実施しており、ホームの運営等について様々な意見をいただいている。また、出された意見はより良いサービス提供に反映できるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市町村職員が参加している。また、南部町の11のグループホームのネットワークがあり、市町村との連携も円滑に図られている。	町にはパンフレットを配布している他、外部評価の結果等についても報告している。また、運営推進会議にも参加していただいている他、何かあればすぐに連絡し、その都度課題の解決に向けて連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを行っている。施設的环境としても施錠をしないケアの実践に努めている。やむを得ず身体拘束を行う場合は同意書を取り、経過等を記録する体制を構築している。	身体拘束についての指針、マニュアルを作成しており、ホーム内で勉強会も行っている。また、可能な限り外部研修にも参加しており、職員は身体拘束の内容やその弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や安全委員会を設置して定期的に内部研修を実施し、全職員が理解に努めている。また、職員同士で注意・意見合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習や勉強会等に積極的に参加し、施設内での内部研修の実施を通じて、全職員が理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者家族等に事業所の理念、ケアの方針や取り組みについて説明している。利用料金等、契約を改定する際には家族等に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へ意見箱を設置している。2ヶ月に1度の運営推進会議では、家族から要望、意見が活発に出され、サービス提供へ反映させている。	日頃から、利用者や家族が意見・苦情を気軽に出しやすい関係作りに努めている。また、運営推進会議には利用者及び家族代表も参加しており、外部に意見を出せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では活発な意見交換をしており、サービス提供や運営に関する見直し等、話し合いを重ねて決めている。	3ユニット合同の職員会議やユニット毎の会議を行っており、全職員が交代で進行役を務める等、全職員が意見を出せる環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の努力や勤務状況をしっかりと把握している。また、健康診断の実施の他、体調不良時の勤務変更等に即時対応できる体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習や勉強会等に積極的に参加し、受講後は報告書を作成して報告会や内部研修を行い、全職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインでの研修参加等で、同業者と交流できる機会を設けているが、以前に比べ回数は減っている。他施設とは連絡を取り合い、業務や制度等の情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接話を聞く機会を設け、利用者の身体状況や思い、希望、ニーズ、不安等を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望者や家族の思いや希望、ニーズを把握するように努め、家族との信頼関係を築くことを意識しながら対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズや課題を見極め、対応できない場合は職員間で十分に話し合い、その都度迅速に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意欲を大切に、それぞれ得意とする事を発揮していただき、尊敬し合える関係を築いている。本人の話に耳を傾け、話題を共有し、相手の立場になって接するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している「赤ずきんだより」にて近況報告や行事、受診の予定をお知らせし、情報交換を行うことにより、利用者の様子や家族の思い、気付きを共有する取り組みを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が知人や友人と電話したり、知人等が気軽に訪ねて来てくださるような環境作りに努めている。感染症対策のため、窓越しの面会で対応している。	入居時の他、生活に慣れた頃にも面談し、利用者の生活歴や馴染みの人・場所等の把握に努めている。また、家族や知人からの電話の取り次ぎ等の支援も行っており、これまでの関わりを継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の時間を大切にしながらも、レクリエーションや作業等、ホールで利用者同士が関わり合える時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先の関係者に対し、利用者の状況や生活歴、これまでのケア等の情報を伝え、ケアの継続をしていただけるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常会話から思いやニーズ等を把握し、ケースへ記録している。職員間で問題点や気づきをケア会議で話し合い、利用者本位のケアに努めている。	職員は日常の何気ない会話の中から、利用者の思いや意向の把握に努めている。意向の確認が困難な場合は、表情や言動、家族や関係者等からの情報を基に全職員で話し合い、利用者の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で家族から利用者の生活歴や個性を聞き取り、可能であれば、知人等、関わりのある方からも情報収集するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、体温・血圧等のバイタルチェック、食事の摂取状況の記録を行い、体調を把握している。本人の希望を考慮して、一日の過ごし方の支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人の状況に合わせ、3ヶ月～6ヶ月に1回のケア会議で話し合った事、利用者や家族の要望、意見を取り入れた上で作成している。	可能な限り利用者から意見を聞いている他、家族や知人、担当職員等、様々な関係者の意見や気づきを反映させ、個別具体的な介護計画を作成している。また、意向や希望に変化はないか常に確認しており、現状に即した介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や身体状況について、細かく記録している。また、職員の気づきや対応した事等も記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の車両を活用し、ドライブやかかりつけ医への受診の送迎を行っている。個別的な買い物、外出にも応えられるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体等の存在を把握し、協力を呼び掛けている。現在は感染症の流行に伴い、外部との接触を控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関には月に1度、訪問診療で医師に来院していただき、その結果を家族に報告している。その他の病院を受診している利用者についても、適切に受診できる体制を整えている。	入居時にこれまでの受療歴を把握し、入居後も希望する医療機関を受診できるように対応している。コロナ禍のため、眼科等の専門医の通院もホームで支援しており、受診結果についても電話やお便りでの報告で情報共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況を十分に把握した看護師を配置し、協力医療機関との連携体制を整え、即時的に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供票を作成し、利用者に関する情報交換を行っている。また、状況に応じて、退院に向けた支援体制について家族も含め、話し合いを行う体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応について研修会等へ参加し、事業所のできる事、不安な事を話し合っている。また、対象の利用者や家族、医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。家族が利用者の最期の時まで付き添えるよう、居室に家族用ソファを用意している。	重度化した場合の指針やマニュアルを作成しており、入居時に説明し、同意を得ている。看護師が常駐しているため、日頃から重度化や終末期の対応等について勉強会を行っている他、医療機関及び利用者や家族とも情報を共有し、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、迅速な対応ができるようにすると共に、急変・事故に備え、全職員が心肺蘇生、AED等の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、2ヶ月に1回、避難訓練を実施している。年2回の消防署立ち会いの訓練は休止し、計画書を消防署へ提出している。また、災害発生時のための備蓄品を常備し、職員連絡網の作成により、迅速な対応ができるように準備している。	年2回の避難訓練の他、2ヶ月に1回、自主避難訓練も実施しており、いざという時に適切な避難誘導ができるように備えている。また、飲料水や食品等の非常食や防寒シート等の寒さをしのげる物品も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、言葉遣いに注意しながら、各利用者のプライバシーを大切にしている。	利用者一人ひとりを尊重した支援に努めており、声掛けや対応について、ホーム全体で改善に向けた取り組みを行っている。職員は勉強会等を通じて、守秘義務や個人情報の取り扱いについても理解を深め、十分に注意して対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう、積極的に働きかけている。また、言葉で十分に意思表示できない場合でも表情や反応を読み取り、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを尊重して、自分のペースで過ごしていただけるよう、柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度理容師が訪問し、希望する利用者は散髪をしている。また、衣類購入希望時は職員が代理で出かけ、馴染みの店で購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの物や旬の物を取り入れ、利用者と一緒に盛り付けや片付けを行っている。要望に応じて職員が買い物へ出かけて購入する等、個人的な嗜好への対応も行っている。	利用者の好き嫌いや禁忌食等に配慮した食事を提供している。また、利用者と一緒に食事の盛り付けや後片付け等も行っており、準備の時間も含め、利用者が食事の時間を楽しく過ごせるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量を個人毎に記録している。食が進むように盛り付けを工夫したり、食事前に口腔体操を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各利用者の口腔ケア、義歯の手入れを支援している。必要があれば歯科医師が訪問し、義歯の調整、口腔ケアの指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄回数を記録し、パターンを把握してそれぞれに合った間隔で声を掛ける等、排泄へのサポートを行っている。	利用者一人ひとりの排泄記録を作成しており、パターンを把握している。また、パターンに応じて事前のトイレ誘導を行っている他、尿取りパッドやオムツの継続が必要かどうか随時検討しており、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や飲食物を工夫する等、できる限り自然に排便できるように支援している。必要があれば家族や医療機関と相談し、下剤の服用の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴日としており、プライバシーに配慮して、快適に入浴できるように支援している。	基本的に週2回は入浴できるようにしており、利用者の入浴習慣や希望の時間等、好みに合わせて支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせた就寝時間やその日の体調により休息をしていただいている。必要があれば家族や医療機関に相談し、眠剤の服用の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を全職員が把握できるよう、利用者全員の薬の情報をファイルに入れ、すぐに確認できるようにしている。薬セット時、内服時、必ず複数名の職員で名前や内容等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かし、得意な事や興味のある事を探して、生きがいのある場面を提供できるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症の蔓延に伴い、外出は極力控えている。利用者の楽しみや気分転換につながるよう、園庭の散歩の他、身体状況に合わせて外気浴、畑での野菜の収穫等の支援を行っている。	コロナ禍のため外出行事は自粛しているが、普段から天気の良い日は敷地内を散歩したり、野菜の収穫やドライブ等、できる限り利用者の気分転換につながるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理能力を考慮して、買い物や日常生活でお金を使うように支援している。毎週近隣のパン屋さんに訪問販売に来ていただき、利用者自ら買い物できる機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を手作りで作成し、家族や知人に送れるように支援している。また、本人の希望に沿って電話できるように支援している。個人が携帯電話を使用することも認めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や園庭に花を植え、施設内からでも楽しんでいただけるようにしている。生活感や季節感を取り入れ、利用者が過ごしやすい空間作りを心掛けている。トイレの照明はセンサーにより利用者を感じし、自動で点灯するようにしている。	ホームの窓から入る日差しは十分で、天井も高く、全体的に明るくて清潔感がある。ホールには大きなテーブルと椅子があり、家庭的な雰囲気の中、利用者はそれぞれ思い思いの場所で穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間に利用者が一人で、あるいは数人で過ごせるよう、ソファを設置する等して場所を確保している。利用者同士の関係性に配慮した環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の愛用していた物等、馴染みの物を持ち込んでいただいている。また、趣味や日課として、作成した作品を飾ったり、好みに合わせた装飾をする等、落ち着いて過ごせる空間作りをしている。	入居時に、なるべく慣れ親しんだ物を持って来ていただくように働きかけており、テレビや衣装ケース、位牌等、様々な持ち込みがある。また、持ち込みが少ない場合には家族の写真を飾る等、職員と一緒に居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや脱衣室等に手すりの増設、変更を行っている。目でわかるように「トイレ」や居室の名前の表示等を工夫している。		